

広島地方裁判所御中

## 原告意見陳述 要旨

伊方原発運転差止等請求事件本案訴訟  
2020年10月14日第20回口頭弁論期日

意見陳述者 井上 豊  
(広島市在住)

今回、貴重な意見陳述の機会を与えて下さったことを感謝いたします。

私は井上豊と申します。北海道、札幌で18歳まで過ごし、横浜で暮らしたあと広島に移りました。いまは、爆心地から約5km北にある安芸長束駅の近くのキリスト教会で牧師という仕事をしています。

私はもともと日夜進歩する科学技術に希望を抱いていました。原子力を夢のエネルギーと考え、原発を維持して行くのが日本の生きる道だと思っていたのですが、原発は危険だという話を耳にするようになり、漠然とした不安は1986年のチェルノブイリ原発事故で衝撃に変わりました。日本でも牛乳などの食品が放射能で汚染されてしまい、原発をこのまま動かし続けるなら日本は人が住めないところになってしまうかもしれないと危機感を抱いて、青森県・六ヶ所村でのデモ行進に参加したり、「今、原子力発電を考える」という講演会を企画したりなどしました。

私は2009年に広島に赴任しました。毎年8月6日、平和公園で、核なき世界を求める広島市民のエネルギーに触れて圧倒されるのですが、人々をそのようになりたてる理由となる悲惨な出来事が私の身近にもありました。教会員の被爆二世同士の夫婦の子供ですが、長男は片目のまぶたが下がったまま、見る事が出来ない状態で生まれました。いま彼は心の病気とたたかっており、就職しても長続きせず、しばらく働いてはやめることを繰り返しています。次男は片方の外耳がなく、また耳の穴が開いてない状態で生まれました。三男は成人してから口の形が変形しはじめ、コロナの感染が拡大する前からマスクをはずせません。私個人は、これは、広島原爆由来の症状である可能性

は排除できない、いやそうだろう、と確信していますが、この家族の苦しみに終わりはありません。私は「原爆さえなかったら」という人々の叫びを、広島に来て初めて知ることになったのです。

広島に来て嬉しかったのは瀬戸内海との出会いです。私は瀬戸内の風景とそこに生きる人々の暮らしに魅了されました。船で四国を訪れたり、島めぐりを楽しんだりしているうちに、瀬戸内海が他にかげがえのない海であることを確信するようになりました。

瀬戸内は温暖な気候で、海はきれいな水をたたえ、場所によれば、潮の干満の差が大きく潮流が川のように流れるところがありますが、そのことで海底の養分が常に巻き上げられ、プランクトンの生育を促すのでたいへん豊かな漁場になっています。島嶼部や沿岸では柑橘類や野菜の実りが多く、このことだけでもいつまでも守っていかねばならない海です。

2011年の2月末、私は中国電力上関原発建設予定地の近くに行き、一年間でおおよそ広島原爆1000発以上の死の灰を産み出すという原発から美しい海を守ろうという運動に参加したのですが、その直後に福島第一原発の事故が起こりました。日本でもいずれこんなことが起きるだろうと予期してはいたのですが、それが現実となって足がふるえました。私は中国人の女性と結婚していますが、事故の直後、中国の母親から妻に緊急の電話があって、「お前、子どもを連れて中国に帰って来い」と言うのです。外国からは日本に居ること自体が危険だと見られていたのです。妻は「広島は福島から離れているから大丈夫」と言って残ったのですが、今はそれが本当に正しい判断だったのかとも思っています。

福島原発事故の直後は原発に反対する世論が強く、各地でデモや集会が盛り上がりました。若い人が「原発が再稼働すればおれたちは殺されてしまうんだぜ」と言っているのを聞きましたが、現在はそれほどの危機感は感じられません。それは放射能が目に見えないということが大きな原因でありましょう。意識的に見ようとしなければ、原発を押しつけられる地方の痛みも、故郷を失って避難せざるをえなかった福島県民の痛みも、被曝しながら命を削って働いている原発作業員の方々も見えません。では自分のことだけ考えていけば良いのか、それは私の良心が許しません。

誰もが想像力を働かせることが求められています。いま自分は安全に生活していたとしても、それが永遠に続くかどうかを、どうか想像してみてください。伊方原発は、すぐ近くを日本で最大の断層帯、中央構造線断層帯が走っており、またここは南海トラフ震源域の北西部にも位置していますから、ひとたびここで巨大地震が起こったらどうなるでしょうか。また、仮にも大規模な水蒸気爆発が起こったとしたら目を覆うばかりのことになります。

原発は過酷事故さえ起こさなければいいという考えもあるかもしれませんが、これは間違いです。伊方原発3号機は稼働している間、毎秒65トンもの海水を吸い込み、これを7度も高い温水に変えて瀬戸内海に放出します。また海水とは別に、伊方原発は大量のトリチウム水を瀬戸内海に放出しています。伊方原発1号機から3号機が稼働していたとき、トリチウム水の放出量は年間平均50兆ベクレル以上だったと聞いています。見ようとしなければ見えないところで、伊方原発の稼働は大切な瀬戸内海を日々むしばんでゆくのです。このことはこの海に生きる魚貝類などを通し、いつか人間にも影響をもたらすでしょう。すでに影響が来ているかもしれません。

私はキリスト者として、科学技術がどれほど発達しても人間が関わってはならないことがあると考えています。聖書に、神が人間をとがめた言葉として「あなたは天の法則を知っているか。そのおきてを地に施すことができるか」というのがあります。(ヨブ記38章33節)天を天上の世界、星の世界だとすると、それは「光」を生みだしている世界であり、核反応によって物質は常に消滅生成を繰り返し、物質は「光」というエネルギーに変わっています。しかし地上はこれとは全く違う世界ですから、星の世界で行われていることを地上で行うのは禁断の行為であり、それが原爆であり原発であると考えます。

天地の創り主なる神様が人間に管理を託された瀬戸内とそこに生きる人々の生活を守り、後世に遺してゆくためには、伊方原発は止まっていなくてはなりません。こう考えて、私はこの裁判の原告となり、ここで意見陳述をしています。裁判官の方々にはこれらのことをご理解頂き、賢明な判断を下さるようお願い申し上げます。

ご清聴有難うございました。